

国際共同研究交通費補助 研究成果報告書

(適宜行追加可)

所属・職・氏名	文学部准教授 高橋厚
共同研究者 所属・職・氏名	The Chinese University of Hong Kong, Assistant Professor Prof. Dr. Colten Cheuk-Yin Yam
研究課題	ペトルス・ロンバルドゥス『命題集』(Sententiae)の自然哲学的主題に関する研究
共同研究 実施期間	派遣期間：2025年11月27日～2025年12月1日
共同研究 実施場所	The Chinese University of Hong Kong

1. 研究の成果（本共同研究によって得られた新たな知見、成果等を簡潔に記述してください。該当しない場合は「該当なし」と記載してください。）

(1) 学術的価値（本研究により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果）

ペトルス・ロンバルドゥスによる『命題集』は、西洋中世の神学者たちが大学での教育の際に教科書として用いた書物である。だが、そのような性格であるが故に、ロンバルドゥスの議論の独自性や固有性について十分な研究が行われてこなかった。発表では、ロンバルドゥスが神の自由を強調することで、創造の可能性と必然性について古代的な議論の転換を図り、十三世紀後半以後の神的能力の絶対性を強調する議論の傾向を促したことを論じた。

(2) 相手国との交流（海外の研究者と学術交流することによって得られた効果）

ロンバルドゥスの『命題集』は、主に古代のキリスト教教父たち（特にアウグスティヌス）の教説をまとめたものである。今回、アウグスティヌスなど古代の神学者たちの研究者も同時に会議に集ったことで、その研究者たちとの議論を通じて、ロンバルドゥスがどのように古代の議論を踏まえながら、それを改変したのかについて理解を深めることができた。

(3) 社会貢献（社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献）

西洋古代・中世哲学の研究について、アジアでも多くの学者が研究を行っているが、これまでアジアを中心にして大きな国際会議を行うことは稀であった。そのような状況で、主に日本と中国の研究者が集うことで、両国の研究者同士の交流を促し、友好関係を深める中で、双方の学術的なレベルを向上させることに貢献した。

(4) 若手研究者養成への貢献（若手研究者養成への取り組み、成果）

今回の国際会議において、若手の大学院生やポスドクも発表者・聴衆として会議に参加しており、そのような若手の研究者たちと議論を行うことで、今後の研究者養成にも努めた。

(5) 将来発展可能性 (本研究を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

香港中文大学は、香港内のみならず世界的にも重要な大学であり、その大学の研究者と繋がりができただけでなく、研究自体にかんしてもロンバルドゥスの重要性について認識を共有し、今後の研究の方向性についても明確にすることができた。また、中国内の他の研究者たちとの交流も通じて、次回の研究会議への参加も促された。

(6) その他 (上記 (1) ~ (5) 以外に得られた成果があれば記述してください。)

例：大学間協定の締結、他事業への展開、受賞、産業財産権の出願・取得等

該当なし。

2. 研究発表 (本共同研究の一環として発表 (予定含む) したものについて記述してください。なお、印刷物がある場合は1部添付してください。)

例：共著論文、口頭発表、出版、ポスター発表

ペトルス・ロンバルドゥスの『命題集』における偶然的な出来事存在論が、どのように古代の神学的な伝統の受容とその改変によって成立したかを明らかにした。この研究によって、ロンバルドゥスがアウグスティヌスのテキストに基づきつつも、神の自由意志を強調することで神の絶対的な能力を重視するスコラ学の傾向の基礎になった可能性についても示唆した。